

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果 |



■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版  
 ■使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

## 1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	丸周運送(株)新社屋 西蒲区 升潟字中ノ島4843番1 外16筆 市街化調整区域 事務所, 工場, 2011年11月 予定 18,639.50 m <sup>2</sup> 6,059.74 m <sup>2</sup> 5,879.09 m <sup>2</sup> 地上2F S造 竣工段階評価 2011年11月4日	
---	---	--

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{43}{34} = 1.2$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★ B: ★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価アイコン	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	2.4		バリアフリー	1.0
			維持管理	3.0
			更新性	3.1
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	2.8		耐震・免震	3.0
			信頼性	2.6
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	2.0		雨水排水負荷低減	2.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.5		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.3		節水	4.0
			リサイクル材の使用	4.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全・創出	1.0
			敷地内温熱環境の向上	3.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	2.5		まちなみ・景観への配慮	3.0
			地域性への配慮, 快適性の向上	2.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 長寿化への取組み → 維持管理について標準的な設計をしています。
- 地震への取組み → 建築基準法に定められた耐震性を有しています。
- 大雨への取組み → 該当する取組みがありません。
- 自然エネルギー利用の取組み → 室内への熱侵入に対して十分な断熱性能を有しています。
- 資源環境への取組み → 再生砕石や集成材などのリサイクル材を利用しています。
- 水と緑を活かす取組み → 主な前面道路沿いを高木や花壇で緑化しています。
- 新潟のまちなみへの取組み → 田園風景へのまちなみに配慮しています。

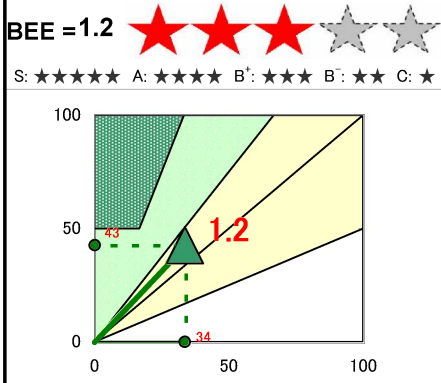
■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

# CASBEE<sup>®</sup>新潟

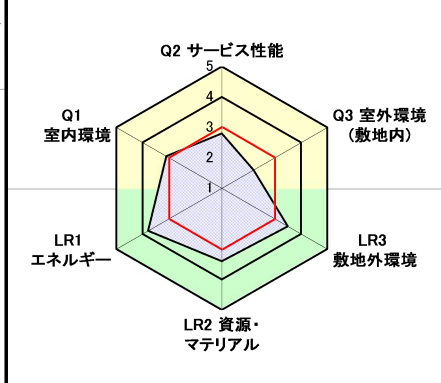
## 評価結果内訳

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2008年版 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.1.2)

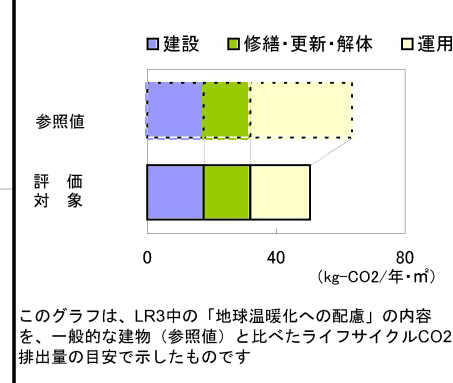
### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



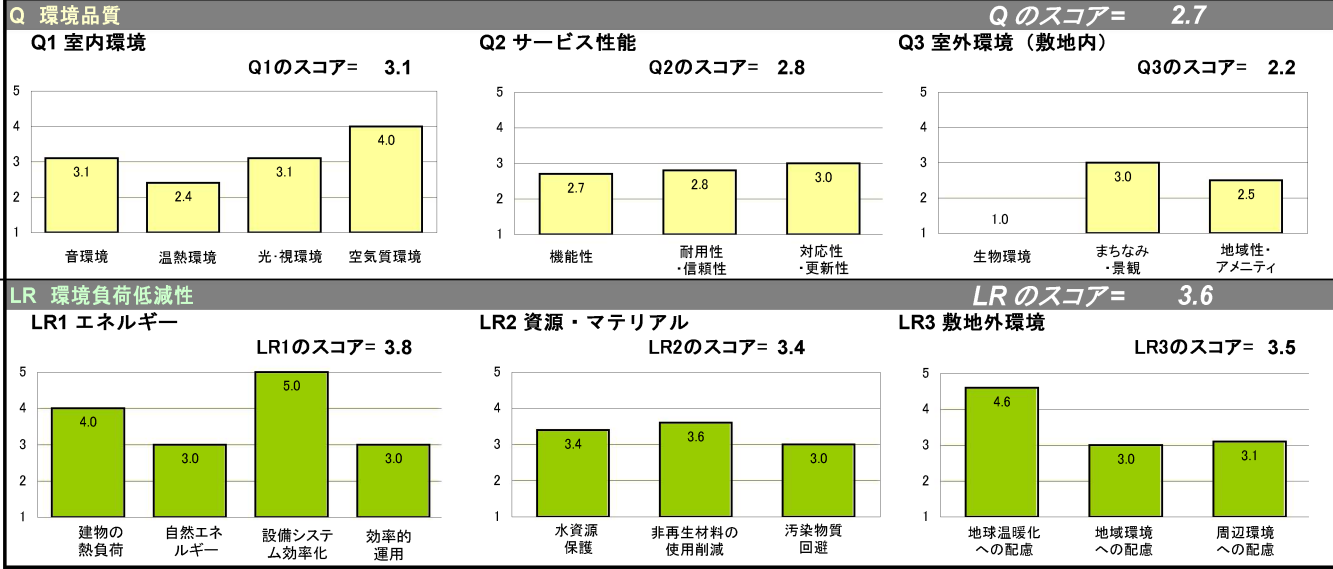
### 2-2 大項目の評価 (レーダーチャート)



### 2-3 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)



### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)



### 2-5 設計上の配慮事項

<b>総合</b> 田園地帯にある工場団地の中心部に計画した建物です。周辺建物との景観に配慮するとともに、北側道路沿いに高木を列植し、田園風景とのまちなみにも配慮しました。		<b>その他</b> 建設現場にリサイクルステーションを設け、廃棄物の分別をし、削減に取り組みました。また、建設残土の搬出を削減するよう、場内において再利用を図りました。
<b>Q1 室内環境</b> シックハウス等の原因となる化学汚染物質の発生を低減するよう、使用材料に配慮するとともに、換気量も十分に確保する設計としました。	<b>Q2 サービス性能</b> 仕上げ材は耐久性、防汚性、清掃面を考慮し、それぞれの室に適した仕上げを選択することで、作業環境の維持を図る計画としました。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 建物の色彩は周辺景観に配慮したものとしました。主前面道路に面する部分の空調室外機等は目隠しフェンス等で見えないようにし、さらに、主前面道路沿いに高木を配置して景観に配慮しました。
<b>LR1 エネルギー</b> 建物の断熱性能の向上を図り、照明については全てLED照明を採用するとともに、照明ゾーニング及びセンサー点滅制御等で省エネルギーに配慮する計画としました。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 常温倉庫はハイサイドライトを設け、昼間照明の削減を図るとともに、自然排煙により倉庫内環境の向上に配慮しました。	<b>LR3 敷地外環境</b> 周辺道路への関係車両の滞留が起きないように、敷地内に十分な車両スペースを計画しました。また、周囲に田園が広がる地域であるため、光害が起きにくいよう、建物や駐車場、外灯の配置や方向に配慮する計画としました。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい